

市民の力で設立され、支えられる

社会福祉法人 清水あすなろ福祉会

# 法人だより

福祉情報を発信します

風の子保育園・あすなろの家・ともの家

No.30 2023年1月20日  
(令和5年)

静岡市清水区山原 871-2  
Tel 054-363-2046  
Fax 054-363-0522



## 2023年 新しい年を迎えて!

明けましておめでとうございます、とは言うものの、あまりおめでたくない話ばかりの2023年の幕開けです。コロナ禍も収束の兆しは見えず、社会保障制度改悪も着々と進められようとしています。法人だよりは今年も情報発信に努力して参ります。職員、利用者並びにご家族の皆様今年もよろしくお願ひ致します。

清水あすなろ福祉会 理事長 杉井則夫

風の子保育園の保育理念は、『子ども一人ひとりの育ちを大切にしよう』です。

子ども一人ひとりと向き合い、寄り添う中で子ども理解を深めていくことを大事に保育しています。子どもたちが仲間の中で育つように、私たち職員も仲間の中で育つことができる職員集団でありたいと思います。一人ひとりが気づき合い、学び合い、認め合い、職員間の連携を深めながら保育を創っていきたいと思います。

風の子保育園 園長 白鳥昌世



昨年は、8月の新型コロナクラスター、9月の台風15号による断水と、バローのひかりサロン浸水被害と、本当に苦しい状況がありましたが、「七夕ウォークラリー」・「参観会（デイ・ショート・厨房）」、「忘年会（施設全体）」を開催し、今期のミッション「繋ぐ」を実践してしまうあすなろの職員、本当に頼もしいと感じた1年でした。私たちができることはほんの小さなことですが、一歩ずつ確実に進化していると実感しております。令和5年も、よろしくお願ひ致します。

あすなろの家 施設長 千葉哲光



私は卯年生まれで、春が来ると還暦を迎えます。干支は「十二支」と「十干」の組み合わせからなり、60年で一巡するため、還暦は生まれた年の暦に還るとされています。生まれた年ですから「赤ちゃんに戻る」と考えられており、赤いちゃんちゃんこを着る風習が生まれたようです。赤いちゃんちゃんこを着る予定はありませんが、これからも仲間と共に成長し、同世代の仲間たちが「ゆるやかに自分らしく生きること」を応援できる存在でいたいと思います。そのために私に必要なことは、もう少し自分を「大切にすること」と「しなやかな心」の獲得です。 ともの家 施設長 瀧戸恵美



新しい年  
を迎えて

## どうなる福祉・医療・・・生活は？

——突然の軍事費大幅増・その財源論だけが大きなニュースに・・・

理事長 杉井則夫

2023年度の国の予算を巡っては、5年計画総額43兆円の軍事予算（防衛費）をどう確保するかということが大きなニュースになっていますが、そもそもの敵基地攻撃能力を強化し、もはや憲法9条など問題にせず、軍事予算総額43兆円ありきという前提に立った財源論議が進められ、NHKを筆頭に、マスコミのほとんどがこのことを問題として取り上げていません。

直接的には社会福祉と関係の無いように思えるかもしれませんが、古来「大砲かバターか」という言い方で、軍事費（大砲）が増えればバター（生活）が大変になると言われてきました。

では、こうした状況下で2023年の医療・福祉はどうなるのでしょうか

### 医療は負担増と診療抑制

高齢者医療費が原則1割負担から、所得により2割・3割負担に引き上げられました。

複数世帯で、年収320万円以上が対象で、それは被保険者の2割だと言います。そして当面は月額3000円以上の医療費は還付するという配慮措置があるとも言います。

別の見方をすれば、8割の世帯が320万円以下の所得しかないという現状があるわけですが、1割負担の壁が取り払われてしまえば、あとは段階的に所得金額を下げて、2割負担を増やしていくというのがこれまでのやりかたです。

負担増の他に診療の抑制があります。風邪や急性下痢症状への抗菌剤投与の適正化（高い薬は使わせない）、白内障手術や化学療法等の外来移行（入院させない）が、目標を定めて推進されようとしています。

コロナ禍で病床が不足して、罹患しても入院できない事態が続いた中でも、入院ベッド数の削減が続けられ、2770病床が削減され、その削減に対して57億円以上の交付金が消費税を財源に支払われているのです。



### 保育・教育は改善？・・・になっていない！

保育士の配置基準が永年にわたって据え置かれて、改善していないという指摘が以前からされていますが、一向に改善しようという動きにはなっていません。

保育士や学童保育の職員などの処遇改善で、賃金月額9000円の引き上げが見込まれてはいますが、国の配置基準より手厚く配置していれば一人あたりの額は減ります。

教育面では、教員が多忙で、授業準備の時間も十分にとれないと言われながら、少子化を理由に教職員2470人を削減することになっています。

出産育児一時金を50万円に引き上げると言いますが、出産費用は保険適用されず全額自己負担ですから、その額とほぼイコールです。これで出生数が増えているのなら、とんでもない勘違いと言わざるを得ません



### 深刻な高齢者介護の大改悪の方向

——国民の批判を受けてとりあえず先送り・・・⇒復活？ ←

一層の世論喚起を

さらに深刻なのは、介護制度改悪の具体化です。

厚労省が当初掲げた介護制度改悪の検討課題は次のようになっていました。

- ・介護サービス利用料の2割3割負担の対象を拡大する
- ・要介護1・2の生活援助を保険給付から外す

- ・ケアプランの有料化
- ・老健施設などの多床室（相部屋）の室料有料化
- ・介護保険料の支払い年齢引き下げ
- ・福祉用具の貸与制度（レンタル）を販売（買い取り）への転換
- ・補足給付制度の見直し



と、多岐にわたります。

ところが12月20日に開催された社会保障審議会介護保険部会では、これらの項目のほとんどが見送られました。この背景としては、インターネット署名をはじめ多くの団体などが早くから反対の意思表示を行ったことと、43兆円の大軍事費増額と同時の社会保障改悪はタイミングが悪すぎることや、今春の統一地方選などいろいろな政治的思惑が重なったことによるものと思われます。

しかし「引き続き検討することが必要である」と結ばれていることで、必ずこの改悪案は復活すると思われるから一層の世論の喚起がのぞまれるのではないのでしょうか。

## 改定障害者総合支援法・・・私たち抜きに私たちのことを決めないで！

### ——施設・グループホーム（GH）から一人暮らしへ

今回改定された“支援法”では、入居後一定期間が過ぎると利用者を一人暮らしさせるGHの仕組みを導入しました。障害者団体などからは、追い出しにつながるのではないかと懸念されています。これは高齢者の施設介護から在宅介護への切り替えが、「在宅放置」にならないかと懸念されていることと同一のものと考えられます。



障がい者福祉は、保険サービスではなく社会保障です。自立を支援すること自体は否定すべきものではありませんが、そこに受益者負担や、本人の意思を無視した支援の押しつけはあってはならないものでしょう。

## 電気代・物価高騰が施設経営を直撃

エネルギー代や諸資材、食料品価格の高騰は施設の経営を直撃します。多少の価格変動への補助金はありますが、とうていそれでまかなえるものではありません。

施設によっては利用者へのしわ寄せや、経営破綻なども現実になりうる状況となっています。

## 「金のある」高齢者 × 「金のない」若者 に対立させて、高齢者に高負担を



いろいろな改定に共通してみとれるのは、「経済力の高いものにより多くの負担をしろ」「利用度の高い人はそれなりの負担をしろ」という考え方です。

そのために、金のある高齢者対金のない若者世代、という対立構造を描き出して、高齢者の負担を増大させようとしています。

高所得高負担には反対ではありませんが、それを言うなら、まず莫大な収益を上げ、コロナ禍のもとでも内部留保を増やし続けている企業への法人所得課税の強化と、一億円以上の高額所得者への課税強化を真っ先に進めるべきでしょう。

二人暮らしの世帯収入で320万円が高収入世帯だなんて、あまりにも日本、貧しくありませんか？

## 施設介護から在宅介護へ・・・やがては「在宅放置」？

一人あたりGDPが今年中に韓国、台湾にも抜かれようとし、もはや経済大国とは言えなくなった日本は、受益者負担の原則を推し進めて社会福祉を後退させ、さらには一層の国債増発までして世界有数の軍事大国化へと突きすすんでゆくのでしょうか？ 国会や専門家会議などの動向に注目するとともに私たちも我が事としてこれらを考えてゆく必要があるのではないのでしょうか？



## 今年も施設内を大公開

—キラキラ笑顔があふれる毎日をお見せしたい

令和4年11月26日、冬本番に入る前に、久しぶりに参観会を行いました。

今回は施設内を大公開！あすなろの家が取り組んでいるケア・お年寄りの様子・職員の様子…キラキラ笑顔があふれる毎日を多くの方にお見せしたい。そんな気持ちで企画しました。

### ○デイ service

ピザ窯でピザ作り。あすなろデイのウリ SHIGOTO 一緒にやりましょう！



### ○厨房

あすなろの人気メニューを販売、レシピもゲットできるよ。



### ○ショート

ショートって何をやっているの？そんな疑問にお答えします。



**お知らせ** 台風 15 号による浸水で閉鎖していたバロ一のひかりサロンが1月4日より再開されました。



## 今年も「うごいて、つながる」をコンセプトに

—大きな人の輪で舞台を囲んで

12月11日（日）ハートピア清水の多目的ホールに

て、毎年恒例の「感謝のつどい」を開催しました。今年も「うごいて、つながる」をコンセプトに、小さな舞台をホールの中心に構えて、全員が踊って動いて歌いました。参加者は仲間と親たち、職員を含めた関係者総勢 130 名。

仲間たちは半年ほど前から、ダンスや手話を付けた曲の練習を行ってききましたが、今年もあえてステージで発表するという形をとらず、大きな人の輪で舞台を囲みました。自由な空間を自由な発想で動くことも、練習した通りに動くことも、逆に動かないこともありでした。

仲間の生き生きした姿はもちろんですが、親御さんたちも、仲間には負けないパワーがあり、当然のように、動いて繋がってくれました。「今日までの練習が楽しかったことが伝わってきた」との親御さんの言葉に、私たちは達成感という「ごほうび」を頂きました。



## 法人主催「地域福祉懇談会」を今年も開催



杉井理事長がはじめのあいさつ

今年の「地域福祉懇談会」は、コロナ禍が続いていることから、11月12日（土）、ハートピア3階大会議室において、法人役員・評議員を中心に開催いたしました。

施設利用者・職員も含め27人が出席、杉井理事長の司会により、主に法人各施設の日常の運営状況が施設長・職員より報告されました。